

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

(2) 協議会の内容

<p style="text-align: center;"><地域></p> <p>公民館長 自治連合会長 子ども会育成会長 民生委員 児童館長 (5) ※地域コーディネーター 公民館長 自治会連合会協議会長 足羽山公園事務所主事 (3)</p>	<p><家庭></p> <p>PTA会長 (1)</p> <p><学校></p> <p>校長 教頭 教務 (3)</p>	<p>年間3回開催</p> <p>《第1回》6月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観…児童の学習の様子 ・スクールプラン、年間計画について <p>《第2回》11月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子道德講座参観 ・前期取組について ・給食試食 <p>《第3回》2月28日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「6年生を送る会」参観 ・学校関係者評価、今年度のまとめ
--	---	--

(3) 協議会における成果と課題

1回目の協議会では、各団体から学校の取組への協力を得られた。育成会からは、児童が主体的に動く活動の工夫を、公民館からは、見守り活動を重視するために「黄色い旗運動」を考えている旨をお聞きし、地域で児童を育て見守り、安全で安心な地域づくりについて共通理解することができた。2回目では、学校行事や地域行事への児童の取り組む姿勢についてご意見をいただき、連携の大切さを再確認することができた。3回目では、学校評価の結果をもとに来年度地域と共に力を入れていきたい内容（家庭におけるゲーム依存率を下げること・自己肯定感を高める取組の工夫）について共有することができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

○児童が地域を素材とした学習を進める中で、地域のよさだけでなく課題を見つけ課題解決に向けた改善策を企画・提案するなど、児童の自発的な活動をめざす。

○様々な活動を通して、地元足羽を誇りに思い、愛着をもち、郷土を愛する心を育てる。

(2) 活動の実際

①「足羽山をアピールしよう PartⅡ」(5年生)

足羽山の魅力を地区内外にツアー形式で伝える「足羽山GOGOツアー」第2弾として、今年度は「足羽山GOGO動物園ツアー」を企画した。5月、6年生から昨年の企画・運営について教えてもらったことで、昨年とは違う足羽山の魅力を伝えたいという思いから、新しくできた動物園(ハピジャン)のツアーを行うことになった。まず、自分達が動物について知ることから始めようと図鑑やインターネット等で調べ、現地に行き観察を行った。地域コーディネーターの計らいもあり実際に飼育体験を行うことができた。その後、ツアー本番に向けて、実物投影機や発表シートを活用して発表の練習をしたり、自校の1年生を足羽山に招待し紹介したりすることで、当日に臨んだ。



ツアー当日はあいにくの雨模様で、参加者が予定より少なくなったが、こども園の園児や地域住民だけでなく、昨年のツアー参加者も足を運んでくれ、児童は予想外の質問にも答え

ることができていた。園児に対する思いやりの態度も見られた。また、児童が考案した足羽山で販売する新メニューが商品化され、大久保茶屋の方から披露された。

このような活動を通して、児童は一層、足羽山への愛着と地元の宝であることに誇りをもつことができたと思う。

②「私たちの足羽地区の魅力を伝えよう」（6年生）

3年の時から行っている足羽地区の宝探しの集大成として今年度は、観光マップ作りを計画した。足羽地区には歴史の深い多くの寺社仏閣があるので、今回は寺社を中心に6つのグループに分かれ、現地へ赴きご住職から話を伺ったり実体験をしたりすることで、より分かりやすく伝わりやすいマップになるよう、工夫した。

原稿が完成した時には、グループ発表会を行いアドバイスし合い、修正を加えた。出来上がった観光マップは、公民館をはじめ足羽山の施設や寺社に置いてもらうことで、地域内外に広める予定である。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

公園事務所主事には、活動1について深く関わっていただいた。昨年の足羽山ツアーでコーディネートしていただいたこともあり、流れも理解されており、新しくできた動物園の調査・体験等に全面協力いただいた。他にも、大久保茶屋への新メニュー協力の依頼や当日までの宣伝の方法、講師等をお願いした。

公民館長には、活動1では、チラシの配布協力やツアー参加の呼びかけ、当日のツアー参加など、活動2では、観光マップの配布協力や地域住民への参加をお願いした。

自治会長にも、同じく製作物の配布協力や地区民への参加を、住民が集まる会議等でお願した。

(4) 特に工夫した事項

・活動1では、当日のツアーに多数参加してもらえよう、保護者や地域住民だけでなくホームページに掲載したり昨年ツアーに参加した方に案内状を送ったり、公民館や動物園に立て看板を設置したり近隣のこども園に呼びかけたりした。

・活動1、2共に、児童が主体的に活動できるよう児童の意見を聞きながらじっくりと計画を立て、軌道修正しながら進めていった。

(5) 成果と課題

昨年の流れを引き継ぎつつ、今年度の児童の興味・関心を引き出しながらの活動となった。活動1（5年生）では、昨年の活動を6年生に説明させ流れを伝えたことが、児童の興味・関心に大きくつなげることができたと思う。自信をもって伝える6年生の姿を見て5年生も意欲をもつことができた。また、地域コーディネーターと担当教員が綿密に打ち合わせをしながら児童へのしかけを提示することで児童のやる気を継続させることができた。児童が考えたメニューが商品化されたことも、大きな要因である。

活動2（6年生）では、観光マップを作るという興味深いめあてがあったことで、活動が自主的になったと感じる。夏休みを利用して実際に自ら地区巡りした児童も見られた。神社での取材では、物怖じせずに話しかけたり受け答えしたりする児童が多く、昨年の経験がコミュニケーション力として育っていると感じることもできた。

ここ何年か足羽山や足羽地区を中心とした学習が進められているが、足羽地区だけでなく福井市全体を見渡すことで、改めて足羽地区の良さや課題が見えてくると思われる。来年度は、児童の主体性を大切にしつつ違う視点での学習も視野に入れて進めていきたい。